

脳血流シンチグラフィ（放射性医薬品： ^{99m}Tc -ECD・ ^{123}I -IMP）

脳血流シンチグラフィで使用する薬は、 ^{99m}Tc -ECD と ^{123}I -IMP というお薬です。診断する内容によって、お薬を使い分けています。この検査は脳血流を評価するための検査で、脳血管障害の病態評価や認知症の診断、変性疾患の鑑別、てんかん焦点の検出などを目的に行われます。

特に、認知症の診断に多く用いられていて、MRI 検査と組み合わせて検査を行うことで、診断の効率を上げています。

◎検査の流れ

この検査は目で光などを見ると検査結果に影響が出るため、目を閉じたり目隠しをした状態で検査を行います。

撮影台の上に寝た状態で注射を行い、薬がしっかり脳に集まっているところを撮像します。

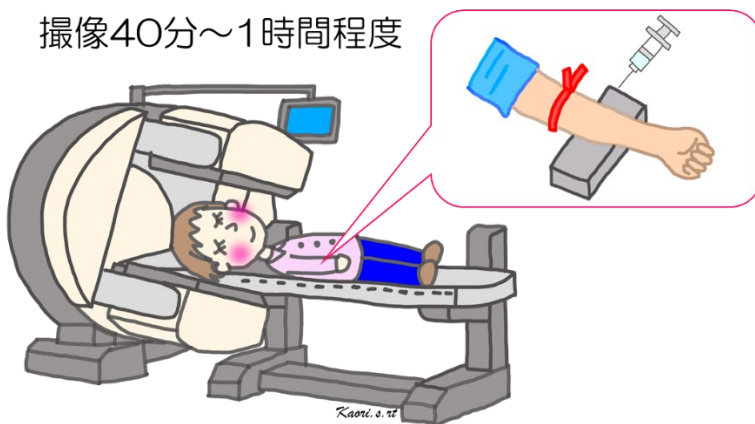
薬の種類によって時間は多少異なりますが、検査時間は 30 分～1 時間程度となります。

撮像中は、仰向けの状態で動かずに寝て頂きます。仰向けが難しい場合は、検査が出来ないことがあります。予め主治医にご相談ください。

また、装置と装置で頭を挟む形で寝るため、閉所恐怖症の方はご注意ください。

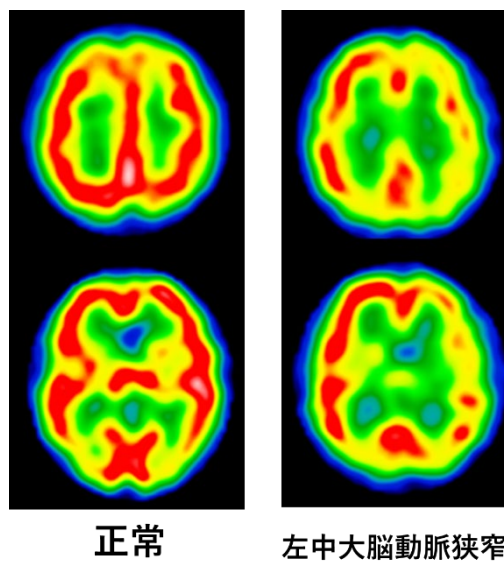
薬の注射をしながら撮像を開始

撮像40分～1時間程度



食事の制限等はありません。また、投与された薬は徐々に尿となって膀胱に溜まり、排泄されます。検査が始まると、終わるまで動けない状態となりますので、検査前は必ずトイレをすませてください。ご協力をお願いします。

◎脳血流シンチグラフィ画像のご紹介



正常画像では、全体的に血流（赤）がある状態が分かるが、左中大脳動脈狭窄の画像では、左前頭葉～側頭葉にかけて集積低下（黄）している。